

結の里 安八郡にあ
○中略

帷子山 可兒郡
○中略

竈山 土岐郡今戸村
○中略

遠山 惠那郡岩村の邊を遠
○中略

白雲水 郡上郡山田庄宮瀬川の邊に泉あり、俗に宗祇水と云、紅葉ばの流るゝ龍田白雲水と名付く、東野州常縁宗祇に古今傳授して、此所まで送り來り、和歌を詠じてあたへられし跡ゆへ宗祇水といへり、

今金森兵部少輔臺近の領地たれば、永く世に傳んことを公卿にねがひて、其ことの葉を多くあつめて世に傳へり、

言の葉の道に結びし契をもつきぬ泉に残す跡かな

鳥丸 従三位 光榮

〔藤河の記〕みの、國の歌枕の名所、その所はいづくとも玄らねども、こゝろにうかぶ事どもを筆、のつるでにかきあつめ侍るべし、

まれにきてみの、お山の松のうれのうれしさみにもあまのは衣
あま衣みの、中山こえ行ばふもとにみゆる笠ぬひの里

いのるぞよおさまるみ世をまつことはみの、お山のひとつこゝろに
時鳥ね覺の里にやどらずばいかでか聞む夜半の一こそゑ

は、きの梢有ともみえなくにたれをも山となづけ初けん

明くれは玄げきうきみのわざみのに猶分まよふ夏草の露

五月雨のもみぢを染るためしあらば舟木の山のいかにこがれん

七夕の逢せは遠きかさゝぎのおぶさのはしまづや渡らむ

東路のうるまの玄水名をかへば玄らじな旅にたつの市人